

&lt;学会からのお知らせ&gt;

## マテリアルライフ学会 「第4回マイクロプラスチック シンポジウム」

【会期】2022年1月11日(火) 午後1時～5時45分 【会場】オンライン開催

海に流れ出た大量のプラスチックごみが引き起こす環境汚染が世界的な問題になっています。2019年に大阪で開かれた主要20カ国・地域(G20)首脳会議で、新たな海洋プラスチック汚染を2050年までにゼロにする事を目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が宣言されました。日本政府は、その実現のため(1)廃棄物管理(Management of Wastes)(2)海洋ごみの回収(Recovery)(3)イノベーション(Innovation)及び(4)能力強化(Empowerment)に焦点を当てた、世界全体の実効的な海洋プラスチックごみ対策を後押しすべく「マリーン(MARINE)・イニシアティブ」を立ち上げ、プラスチックの重要性を認識しつつ誤った管理によるプラスチックごみの流出(Leak)を減らす国際的な取組みを始めました。

マテリアルライフ学会では、劣化やエコマテリアルを専門に扱う学会として、プラスチックごみ問題に取り組んでいる専門家や第一線のマイクロプラスチック研究者を招聘し、最新情報の共有と意見交換を目的として2018年以降毎年マイクロプラスチック・シンポジウムを開催してきました。第1回シンポジウムでは、定義と測定法、生態系への影響、生分解度、海洋中での移動について4件の講演がありました。第2回シンポジウムでは、前半の部でマイクロプラスチック問題について幅広い視点から3件の講演があり、後半の部では環境中でプラスチックが微細化する過程に関する3件の講演がありました。第3回シンポジウムでは、前半の部でマイクロプラスチック問題について幅広い視点から2件の講演があり、後半の部ではISOの審議状況や分析法、特に今後問題視される可能性があるナノプラスチックの分析法に関する3件の講演がありました。

これを受けて、マテリアルライフ学会では2022年1月に第4回マイクロプラスチック・シンポジウムを開催します。今回は6名の専門家を招聘し、前半の部では環境中にLeak(意図しない流出)したプラスチックごみが河川などを通じて海洋中に流出する過程の検証について3名の専門家に講演していただき議論します。後半の部ではプラスチックごみを環境中にLeakさせないための対策について3名の専門家に講演していただき議論します。

プラスチックごみやマイクロプラスチック問題に関心をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

シンポジウムは、下記の要領で開催します。

日時：2022年1月11日(火) 13:00～17:45

会場：オンライン開催 (Zoom)

主催：マテリアルライフ学会

**協賛 (予定)：**機能性フィルム研究会、繊維学会、日本ゴム協会、プラスチック成形加工学会、色材協会、日本材料学会、日本化学会、高分子学会、日本建築学会

**協賛 (交渉予定)：**公益社団法人日本下水道協会、公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会、特定非営利活動法人最終処分場技術システム研究協会、公益財団法人日本下水道新技術機構、土木学会、日本分析化学会、日本水環境学会、廃棄物資源循環学会、他

募集人員：100名

**参加費 (予稿集代金)：**

会員：2000円、非会員5000円(予稿集はシンポジウム後の送付となります)

**申込方法：**

申込用紙によるメール、FAX、郵便による直接申込またはマテリアルライフ学会HPより

**プログラム：**

13時～13時05分：開会挨拶(黒田真一)

前半の部：座長 黒田真一

13時05分～13時55分：講演I(東京理科大学：二瓶泰雄)

**【演題】** 流域～河川～海域におけるプラスチックごみの動態

**【内容】** 日本全国の河川におけるMP汚染状況の実態や陸域から河川、海域へ移動するプラスチックごみの動態の一端を紹介する。また、これらの結果より得られる陸域から海域へのプラスチック

くごみ排出量評価結果やその課題を説明する。  
13時55分～14時45分：講演Ⅱ（国立環境研究所資源循環領域：鈴木 剛，田中厚資，高橋勇介，倉持秀敏，大迫政浩）

【演題】 プラスチックごみの循環廃棄過程からのプラスチック微小粒子等の流出実態把握と流出抑制にむけて

【内容】 国立環境研究所では、海洋プラスチックごみの効果的な削減に貢献するために、プラスチックのフロー、資源循環過程や環境排出の挙動、3Rを含む排出抑制対策、随伴する化学物質のリスク管理などに関する総合的な研究を実施している。本講演では、流出実態の把握にむけた研究事例を紹介する。

14時45分～15時35分：講演Ⅲ（大阪商業大学：原田禎夫）

【演題】 プラスチック汚染にどう立ち向かうのか：社会的営業免許（SLO）の可能性をさぐる

【内容】 プラスチック汚染が世界的な問題となる中、日本のプラスチックのリサイクル率は30%にも満たず、世界最大のプラごみ輸出国でもある。本報告では社会的営業免許（SLO）の観点から、脱プラスチックをどのように実現すべきか考察する。

後半の部：座長（五十嵐敏郎）

15時40分～16時30分：講演Ⅳ（早稲田大学：加茂 徹）

【演題】 マイクロプラスチックの発生を抑制するためのリサイクル技術

【内容】 マイクロプラスチックは漁具や途上国の都市部

から流出した廃プラスチックが主な発生源と推定されている。本講演では、マイクロプラスチックの発生を抑制するために必要な廃プラスチックのリサイクル技術を検討する。

16時30分～16時55分：講演Ⅴ（Alliance to End Plastic Waste 廃棄プラスチックを無くす国際アライアンス：穴田武秀）

【演題】 廃棄プラスチック問題解決に向けた広範な連携の必要性

【内容】 私たちは、環境中の廃棄プラスチックをなくすために、解決策を開発・展開し、循環型経済の推進を行うことを目的とし、プラスチックチェーン全般からの企業や団体が組織された国際NPO法人である。今回、団体・事例紹介を通じて、より広範な連携の重要性についてお話しする。

16時55分～17時40分：講演Ⅵ（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス：柳田康一）

【演題】 企業アライアンスによる海洋プラスチックごみ問題への対応

【内容】 海洋プラスチックごみ問題の解決には、一企業や特定の業界だけでなくすべてのステークホルダーの参画が求められている。クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスは、素材、製品製造、小売、リサイクルを担う450の企業アライアンスで、画期的なソリューションを生み出していく。

17時40分～17時45分：閉会挨拶（五十嵐敏郎）

----- キリトリセン -----

### 行事申込用紙

【申込先】 マテリアルライフ学会 〒116-0011 東京都荒川区西尾久 7-12-16 創文印刷工業(株) 内 TEL.03-3893-0111 FAX.03-3893-6611 E-mail:mls@kt.rim.or.jp				
参加申込書 (コピー可)	行事名：マテリアルライフ学会 「第4回マイクロプラスチック シンポジウム」 (2022.1.11)			
	<table border="1"> <tr> <td>参加者名 (複数可)</td> <td>【参加費】 会 員：□一般 2,000 円 非会員：□一般 5,000 円</td> </tr> <tr> <td>勤務先</td> <td>TEL. FAX. E-mail :</td> </tr> </table>	参加者名 (複数可)	【参加費】 会 員：□一般 2,000 円 非会員：□一般 5,000 円	勤務先
参加者名 (複数可)	【参加費】 会 員：□一般 2,000 円 非会員：□一般 5,000 円			
勤務先	TEL. FAX. E-mail :			
【送金方法】 どちらかを選択し○で囲んでください ①銀行振込：みずほ銀行 兜町支店 普通口座 1505652 ②郵便振替：00120-2-708181 振込予定__月__日 口座名：マテリアルライフ学会 ※請求書 (要・不要)				
連絡先 〒 ----- -----				

※参加費の該当箇所を○で囲んで下さい。

↑※連絡先は明瞭にご記入下さい。